

第5章 計画地及びその周辺地域の概況 並びに環境の特性

第5章 計画地及びその周辺地域の概況並びに環境の特性

1 計画地及びその周辺地域の概況

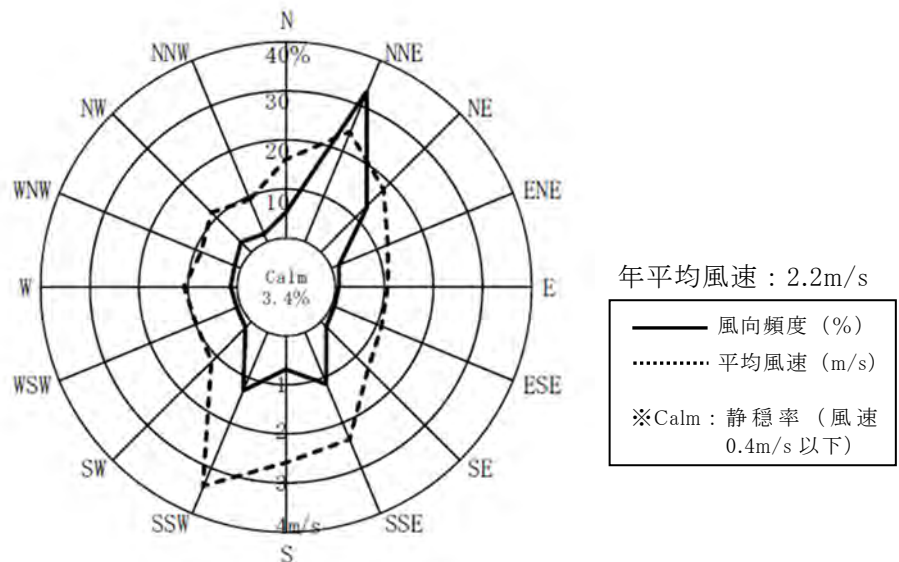
(1) 気象の状況

計画地周辺にある一般環境大気測定局(中原測定局)における令和3年度の風配図は、図5-1に示すとおりである。

中原測定局では、北北東(NNE: 33.3%)の風が卓越しており、年平均風速は2.2m/sである。また、令和3年度の月別平均気温は、図5-2(1)に示すとおりであり、年平均気温は16.9℃である。

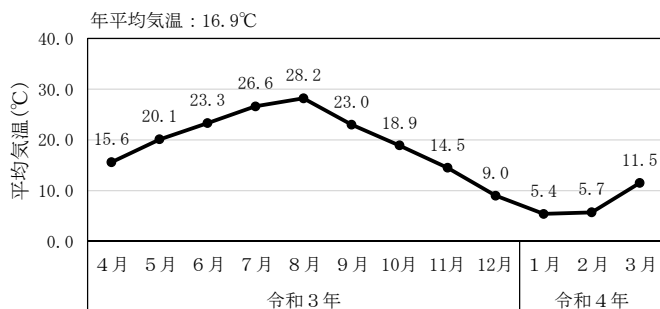
降水量は、田島測定局(計画地南東側約9.3km)において測定されており、令和3年度の月別降水量は、図5-2(2)に示すとおりであり、年間降水量は1,732.0mmである。

なお、測定局の位置は、図5-3に示すとおりである。



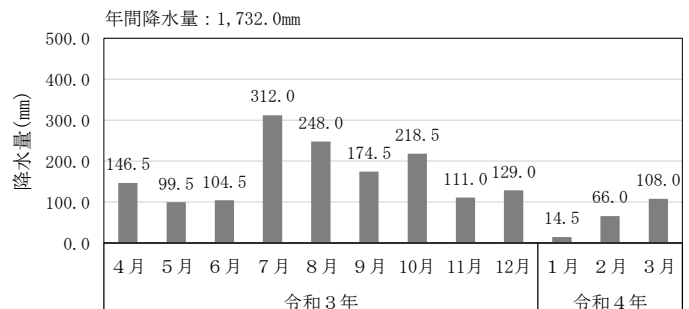
資料：「川崎市大気データ」(令和5年6月閲覧、川崎市ホームページ)

図5-1 風配図(令和3年度：中原測定局)



資料：「川崎市大気データ」
(令和5年6月閲覧、川崎市ホームページ)

図5-2(1) 月平均気温
(令和3年度：中原測定局)



資料：「川崎市大気データ」
(令和5年6月閲覧、川崎市ホームページ)

図5-2(2) 月別降水量
(令和3年度：田島測定局)

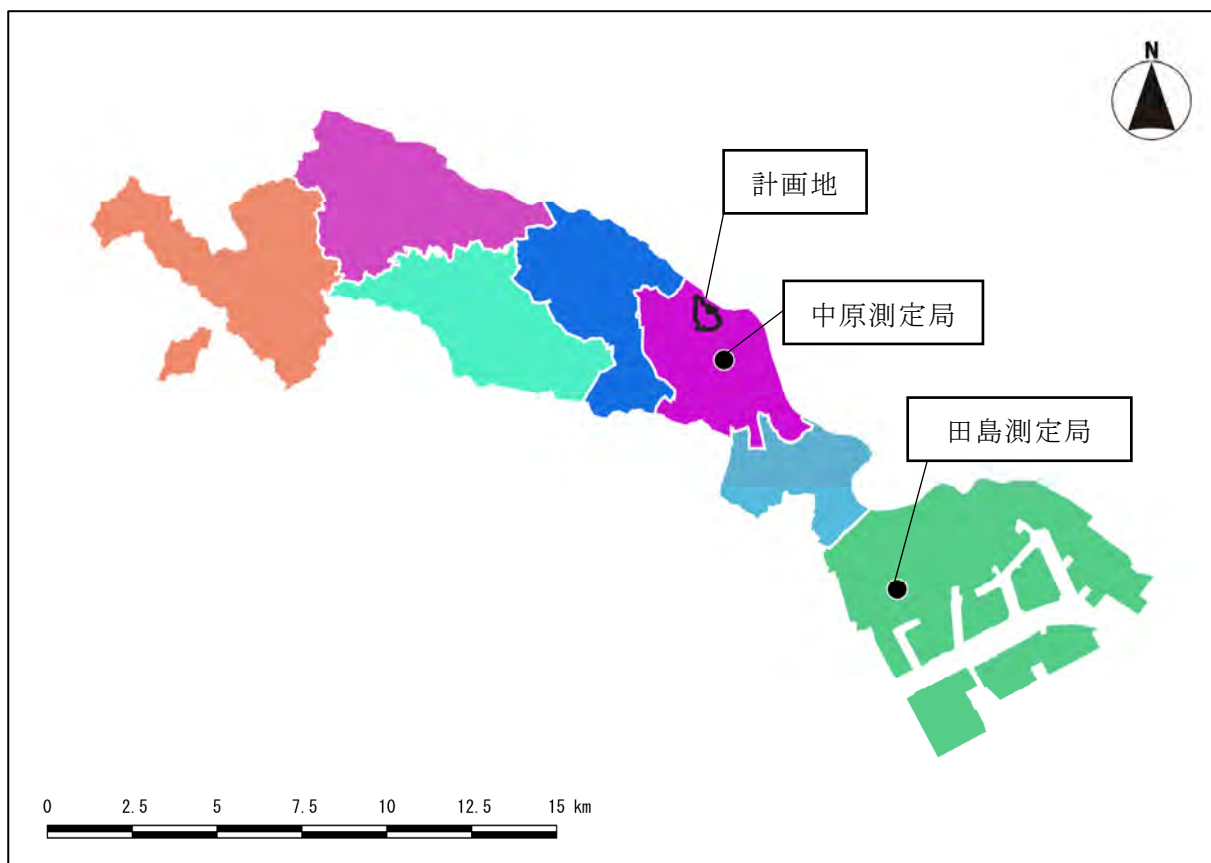


図 5-3 測定局位置

(2) 地象の状況

計画地及び周辺は全体的に平坦な地形となっており、標高は T.P.*+4.5~+10m程度、多摩川の堤防が T.P.+13m程度となっている。計画地内は T.P.+4.5~+8m程度であり、周囲に比べて若干標高が低くなっている。

計画地及びその周辺の自然地形は、多摩川の「旧河道」、「氾濫平野」、「自然堤防」からなっている。自然地形の「旧河道」及び「氾濫平野」は、大半が「人工地形（盛土地・埋立地）」となっている。

計画地は過去に「新丸子採取場」として、大規模な砂利の陸掘採取が行われ、その後埋め立てられた「人工地形（盛土地・埋立地）」であり、採取跡の一部は、現在も水域（釣池）として残っている。

※：T.P.：Tokyo Peil の略。東京湾平均海面を示す。

(3) 水象の状況

計画地北側約 100m に一級河川多摩川が流れており、計画地は多摩川流域に属している。計画地内の水域として、過去の砂利の陸堀採取の跡地の一部である「釣池」が存在する。

等々力緑地内の雨水排水は、全域が分流式のポンプ排水区域となっており、集水した雨水は、等々力ポンプ場（中原区等々力 20-1）から多摩川へポンプ排水している。

計画地周辺の地下水位は、「令和 3 年度 水質年報」（令和 5 年 3 月、川崎市）によると、計画地の西南西側約 1.3km にある新城小学校（中原区下新城 1-15-3）で測定されており、令和 3 年の年平均水位は、T.P.+6.08m（G.L.-3.15m）である。

計画地及びその周辺に、湧水地は存在していない。

なお、「令和 3 年度 川崎市の災害概要」（令和 4 年 8 月、川崎市）によると、中原区における過去 10 年間（平成 24 年度～令和 3 年度）の住家浸水被害発生状況は、床上浸水が計 955 棟、床下浸水が計 141 棟である。なお、令和 3 年度には、計画地周辺で被害は発生していない。また、直近の風水害である台風（令和元年東日本台風）では、計画地内及びその周辺において浸水被害が発生している。

(4) 植物、動物の状況

ア 植物

① 植物相及び植生

川崎市において確認された植物種数（平成 28 年度～令和 2 年度）は表 5-1 に示すとおりであり、1,353 種の植物種が確認されている。

また、計画地内における植物調査結果は表 5-2 に、計画地及びその周辺の植生図は、図 5-4 に示すとおりである。

計画地周辺は「市街地」の中に、「緑の多い住宅地」や「残存・植栽樹群地」等が散在する。計画地内には「クヌギ-コナラ群集」、「ゴルフ場・芝地」、「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」、「開放水域」、「路傍・空地雑草群落」、「残存・植栽樹群地」等が存在する。

計画地内において確認された植物は、概ね、一般的な都市公園で確認される植物種で構成されており、注目される種、群落は確認されていない。

表 5-1 川崎市において確認された植物種数（平成 28 年度～令和 2 年度）

単位：種

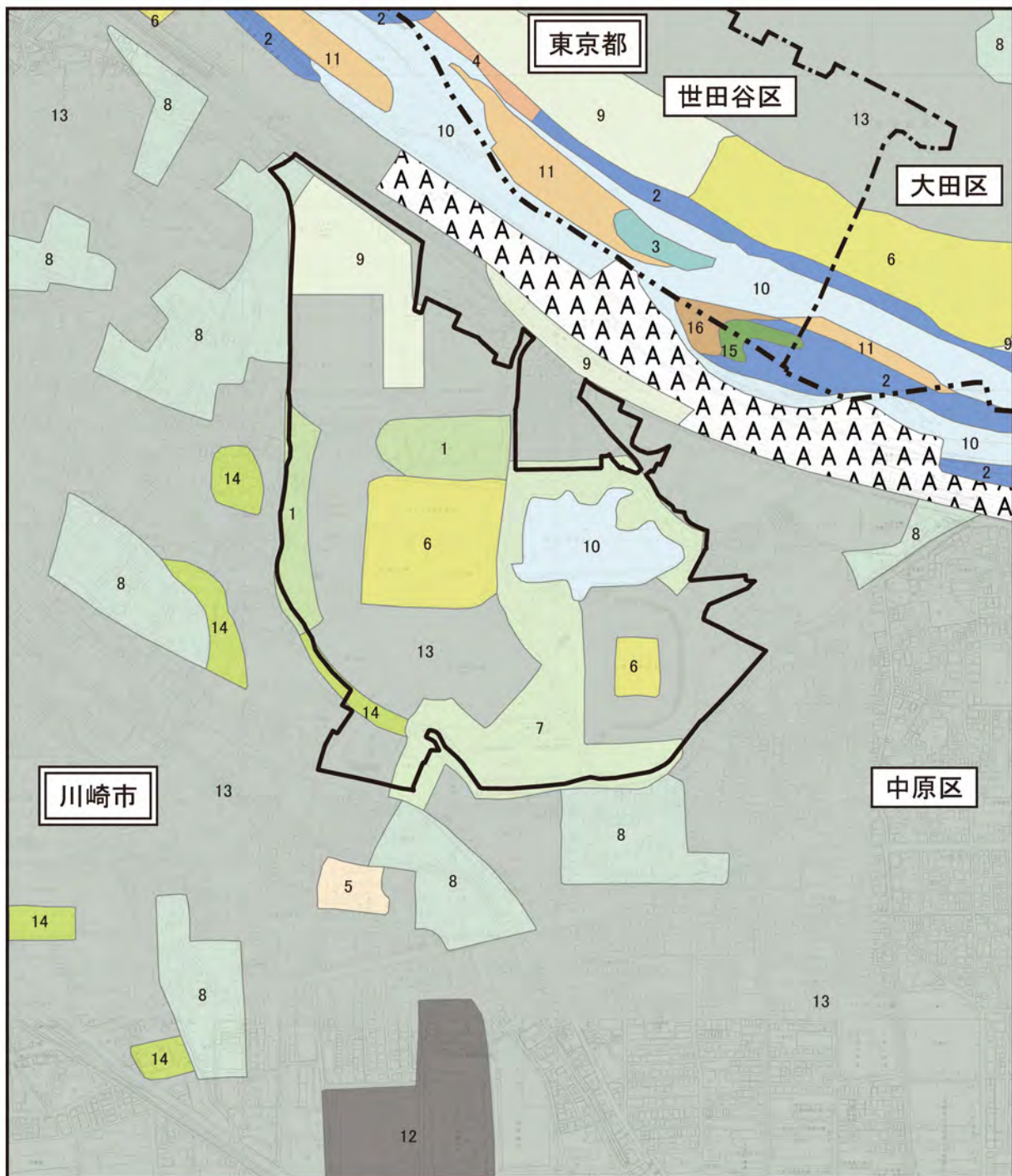
項目	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
植物種数	1,353	1,353	1,353	1,353	1,353

資料：「2021 年度版 環境基本計画年次報告書」（令和 4 年 1 月、川崎市）

表 5-2 計画地内における植物調査結果

分類群	現在確認されている生物
植物	春：ウメ、サクラ、ツツジ 秋：イロハモミジ 等々力緑地内：クヌギ-コナラ群落、残存・植栽樹群地 多摩川沿い：オギ群集、ヤナギ低木群落 釣池周辺：カツラ、アジサイ、シラカシ、 アオギリ 、クスノキ、シュロ、 ラクウショウ 、ケヤキ、タブノキ、 キンモクセイ 、エノキ

注) **太文字**：外来種
 資料：川崎市提供資料



凡例

- | | | | | | | | |
|--|-----|--|---------------------------|--|---------------------|--|-----------------|
| | 計画地 | | 1 クヌギコナラ群集 | | 7 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 | | 12 工場地帯 |
| | 都県界 | | 2 オギ群集 | | 8 緑の多い住宅地 | | 13 市街地 |
| | 区界 | | 3 河辺一年生草本群落
(タウコギクラス等) | | 9 路傍・空地雑草群落 | | 14 残存・植栽樹群地 |
| | | | 4 竹林 | | 10 開放水域 | | 15 ヤナギ低木群落 (VI) |
| | | | 5 畑雑草群落 | | 11 自然裸地 | | 16 河川砂礫地外来草本群落 |
| | | | 6 ゴルフ場・芝地 | | A 造成地 | | |

資料：「植生図 第6-7回調査」(令和5年6月閲覧、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)

図 5-4 植生図

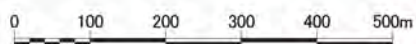


図 5-5 に示す多摩川緑地（等々力地区）で実施された植物の調査結果は、表 5-3 に示すとおりである。

川岸や池等の岸辺に生えるヤナギ類やオニグルミ、公園等の草地で多く確認されるシバやシロツメクサ等の他、道路や荒地でみられるオオバコ、水辺の植物であるヨシやミゾソバ等の生育が確認されている。

表 5-3 多摩川緑地（等々力地区）で確認された植物

調査環境	確認された生育種
樹林地	アカメヤナギ、シダレヤナギ、エノキ、オニグルミ、クズ、カナムグラ
草 地	イヌタデ、シバ、メヒシバ、エノコログサ、オオバコ、シロツメクサ、カントウタンポポ、ハナダイコン、ハマダイコン、アレチハナガサ、キクイモ、ススキ、ヨシ、セイバンモロコシ
水辺・湿地	シヤクチリソバ、ミゾソバ、ヤナギタデ、セリ、オギ、ツルヨシ、マコモ

注) 調査時期：平成 30 年 5 月、8 月、10 月、平成 31 年 2 月

資料：「生物多様性かわさき戦略～人と生き物 つながりプラン～令和 2 (2020)年度取組状況報告書」
(令和 4 年 3 月、川崎市)

② 天然記念物等の指定状況

計画地及びその周辺に存在する天然記念物等は表 5-4～5 及び図 5-5 に示すとおりである。

市街地内に残された貴重な郷土林として、県指定の「春日神社、常楽寺及びその周辺の樹叢」が 1 件存在する。

また、巨樹 2 件が存在する。

なお、特定植物群落は計画地及びその周辺には存在しない。

表 5-4 天然記念物（植物）

指 定	名 称	所在地	指定年月日
県指定	春日神社、常楽寺及びその周辺の樹叢	川崎市中原区宮内字白田耕地614他	平成4年2月14日

資料：「神奈川県文化財目録 種別順（令和 5 年 5 月 1 日現在）」（令和 5 年 5 月、神奈川県教育委員会）

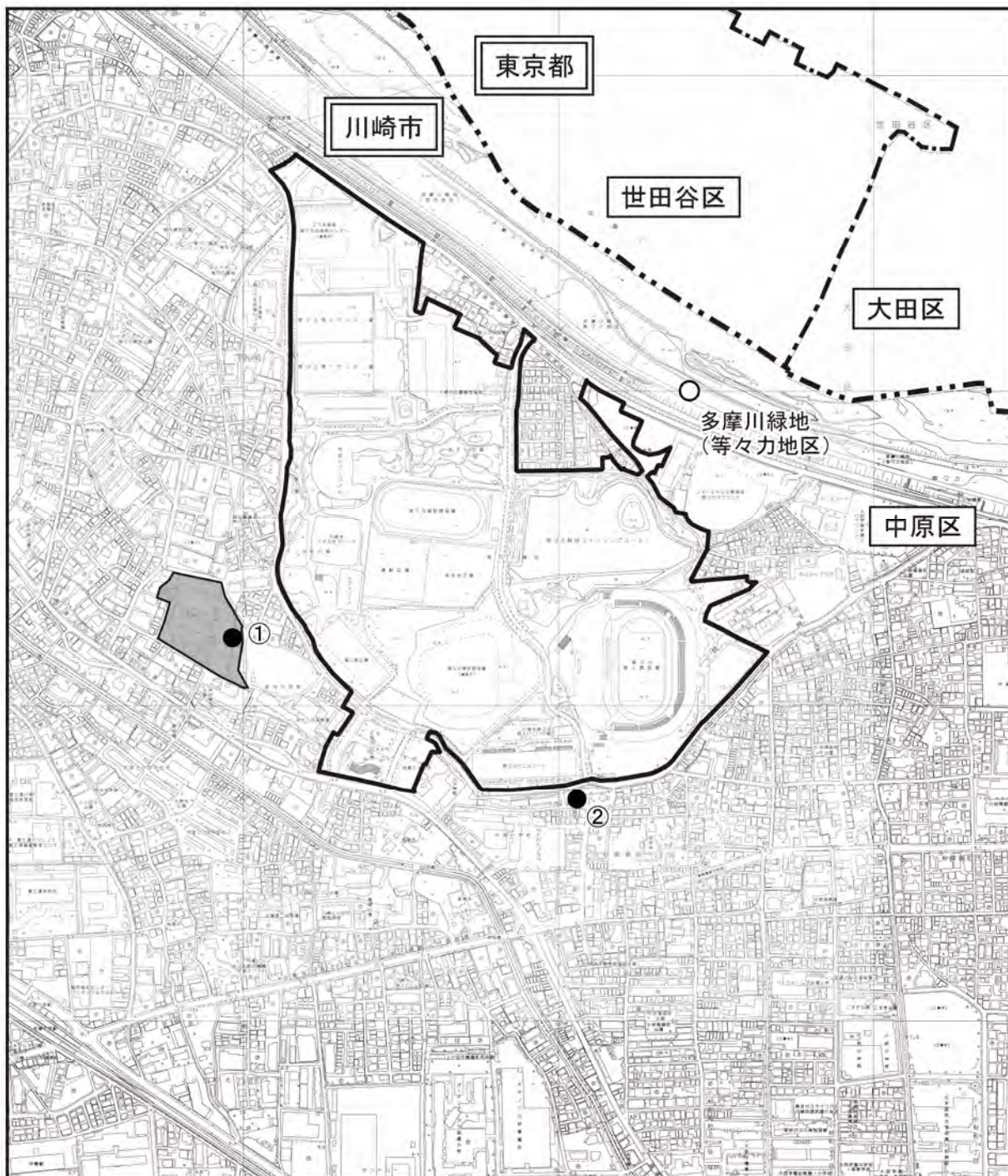
表 5-5 巨樹・巨木林

番号	所在地	推定樹齢 (年)	樹種名	幹 周 (cm)	樹 高 (m)	通称・呼称
①	川崎市中原区 宮内616	不明	イチヨウ	399	20	なし
②	川崎市中原区 小杉御殿町1-1010	100～199	ケヤキ	393	24	なし

注) 表中番号は、図 5-5 に対応する。

資料：「巨樹・巨木林 第 6 回調査」

(令和 5 年 6 月閲覧、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)



凡例

- | | |
|-----|--------|
| 計画地 | 天然記念物 |
| 都県界 | 巨樹・巨木林 |
| 区界 | 植物調査地点 |

注) 図中番号は、表 5-5 に対応する。

資料：「神奈川県文化財目録 種類別（令和5年5月1日現在）」（令和5年5月、神奈川県教育委員会）
 「巨樹・巨木林 第6回調査」（令和5年6月閲覧、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ）
 「生物多様性かわさき戦略～人と生き物 つながりプラン～令和2(2020)年度取組状況報告書」（令和4年3月、川崎市）

図 5-5 計画地周辺の天然記念物等及び植物調査地点

0 100 200 300 400 500m



イ 動物

① 動物相

a 計画地及び計画地周辺

「神奈川の鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書」（平成4年3月、神奈川県環境部）によると、全県を116の区画（メッシュ）に分け中型哺乳類18種類、代表的な鳥類150種類について調査を行い、生息分布図を作成している。

計画地及びその周辺が該当するメッシュは2メッシュであり、該当するメッシュで生息確認されている種は、哺乳類では、「タヌキ（イヌ科）」の1種であった。鳥類は、表5-6に示すとおり、28種の生息が確認され、ヒヨドリ、スズメ、カワラヒワ、キジバト、ムクドリ等人家周辺タイプで市街地環境に適応した種が多く、多摩川や池が存在することからコサギ、カモ類、セキレイ類等水辺の鳥も確認されている。

表 5-6 計画地及びその周辺で確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	No.	目名	科名	種名
1	カツオドリ	ウ	カワウ	16	スズメ	セキレイ	タヒバリ
2	ペリカン	サギ	コサギ	17		ヒヨドリ	ヒヨドリ
3	カモ	カモ	カルガモ	18		ヒタキ	ツグミ
4			コガモ	19			ウグイス
5			ヒドリガモ	20			セッカ
6			オナガガモ	21		シジュウカラ	シジュウカラ
7			ハシビロガモ	22		メジロ	メジロ
8	キジ	キジ	コジュケイ	23		ホオジロ	ホオジロ
9	チドリ	カモメ	ユリカモメ	24			アオジ
10			セグロカモメ	25		アトリ	カワラヒワ
11	ハト	ハト	キジバト	26		スズメ*	スズメ
12	フクロウ	フクロウ	コミミズク	27		ムクドリ	ムクドリ
13	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	28		カラス	ハシボソガラス
14		ツバメ	ツバメ	29			ハシブトガラス
15		セキレイ	ハクセキレイ	合計		8目	19科

※：スズメの科名は、資料内ではハタオリドリ科と示されているが、現在の分類学に基づきスズメ科とした。
資料：「神奈川の鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書」（平成4年3月、神奈川県環境部）

b 計画地周辺（多摩川緑地）

図5-6に示す多摩川緑地（等々力地区）で実施された調査結果は表5-7～8に示すとおりである。

環境に適応した代表的な種が多く確認されている中、全国及び県での減少が懸念されている猛禽類のオオタカやハイタカ、県での減少が懸念されている哺乳類のイタチ、鳥類のアカハラ、モズ、ヒバリ、カワラヒワ、セッカ、ツバメ、オオヨシキリ、アオジ、イカルチドリ、イソシギ、爬虫類のシマヘビ、昆虫類のシロジュウゴホシテントウ、ショウリョウバッタモドキ、ハグロトンボの生息が確認されている。

表 5-7 多摩川緑地（等々力地区）で確認された動物

調査環境	項目	確認された動物種
樹林地	鳥類	キジバト、トビ、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、トビ、スズメ、シロハラ、ツグミ、全国及び県での減少が懸念されているオオタカ、県での減少が懸念されているアカハラ
	爬虫類	—
	昆虫類	アブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ツヤアオカメムシ、ヒシモンナガタマムシ、シロジュウゴホシテントウ、ナミテントウ、ドウガネサルハムシ、ヤナギルリハムシ、ウメマツオオアリ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、サトキマダラヒカゲ、県での減少が懸念されているシロジュウゴホシテントウ、外来種のアカボシゴマダラ
草地	哺乳類	アズマモグラ、タヌキ
	鳥類	キジバト、チョウゲンボウ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、イワツバメ、アマツバメ、ツグミ、ハクセキレイ、タヒバリ、ベニマシコ、県での減少が懸念されているモズ、ヒバリ、カワラヒワ、セッカ、ツバメ、オオヨシキリ、アオジ
	昆虫類	エンマコオロギ、カンタン、ハラヒシバツタ、ツチイナゴ、コバネイナゴ、ショウリョウバッタ、ヒナバッタ、トノサマバッタ、ナガチャコガネ、マメコガネ、ナナホシテントウ、ヒメカメノコテントウ、ウリハムシ、クロトゲハムシ、コフキゾウムシ、イチモンジセセリ、チャパネセセリ、キアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、キタテハ、県での減少が懸念されているショウリョウバッタモドキ
水辺・湿地	哺乳類	タヌキ、県での減少が懸念されているイタチ、外来種のアライグマ
	鳥類	カルガモ、コサギ、カワセミ、県での減少が懸念されているイカルチドリ、イソシギ
	両生類	アズマヒキガエル、外来種のウシガエル
河川の部分	鳥類	カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、トビ、カワセミ、コガモ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、全国や県での減少が懸念されているハイタカ、県での減少が懸念されているイソシギ、カワラヒワ
	昆虫類	アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、アキアカネ、アメンボ、県での減少が懸念されているハグロトンボ

注 1) 調査時期：平成 30 年 5 月、8 月、10 月、平成 31 年 2 月

注 2) 「—」は動物種が確認されなかったことを示す。

資料：「生物多様性かわさき戦略～人と生き物 つながりプラン～令和 2 (2020)年度取組状況報告書」
(令和 4 年 3 月、川崎市)

表 5-8 計画地周辺における水辺の生きもの

調査地点	魚・エビ・カニ	底生動物
二ヶ領用水 (今井上橋) BOD:2.4mg/L	オイカワ、タモロコ、フナ、コイ、ミナミメダカ、スミウキゴリ、カワリヌマエビ	アメリカツノウズムシ、シジミ、ヒル、ミズムシ、コカゲロウ、ムネカクトビケラ、シマトビケラ、ユスリカ
多摩川 (丸子橋) BOD:1.6mg/L	アユ、オイカワ、ウグイ、モツゴ、カマツカ、フナ、ヨシノボリ、ヌマチチブ、ヌマエビ、テナガエビ、ベンケイガニ、モクズガニ	プラナリア、モノアラガイ、ヒキマキガイ、シジミ、イトミミズ、ヒル、フロリダミズヨコエビ、ミズムシ、ヒメシロカゲロウ、マダラカゲロウ、コカゲロウ、ヒラタカゲロウ、シオカラトンボ、ムネカクトビケラ、シマトビケラ、クダトビケラ、ヒメトビケラ、ヒゲナガトビケラ、チョウバエ、ユスリカ、ヒラタドロムシ

資料：「かわさき水辺の生きもの一川と海に出かけてみよう」(平成 31 年 3 月、川崎市)

c 計画地内（釣池）

川崎市資料による計画地内の釣池における調査結果は、表 5-9 に示すとおりである。

釣池には富栄養化した池に見られるような動物が生息しており、また、外来種も多く確認されている。

表 5-9 釣池で確認された生物（動物）

分類群	現在確認されている生物	過去に確認された生物
魚類	ブルーギル、ヘラブナ、コイ、マブナ、モツゴ	タナゴ類
貝類	サカマキガイ	二枚貝 (ドブガイの仲間)
エビカニ類	テナガエビ、スジエビ、 アメリカザリガニ 、ミズムシ	—
昆虫類	コシアキトンボ、ユスリカ類	—
鳥類	オカヨシガモ、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、コアジサシ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、カワラヒワ、 ワカケホンセイインコ、ドバト	—
両生類・爬虫類	ミシシッピーアカミミガメ、ウシガエル	—

注) **太文字**は外来種を、下線は特定外来生物を示す。

資料：川崎市提供資料

② 鳥獣保護区等の指定状況

計画地及びその周辺における「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年 7 月 12 日、法律第 88 号）に基づく鳥獣保護区は、表 5-10 及び図 5-6 に示すとおり、「多摩川」、「等々力緑地」等が指定されている。

表 5-10 計画地及びその周辺の鳥獣保護区

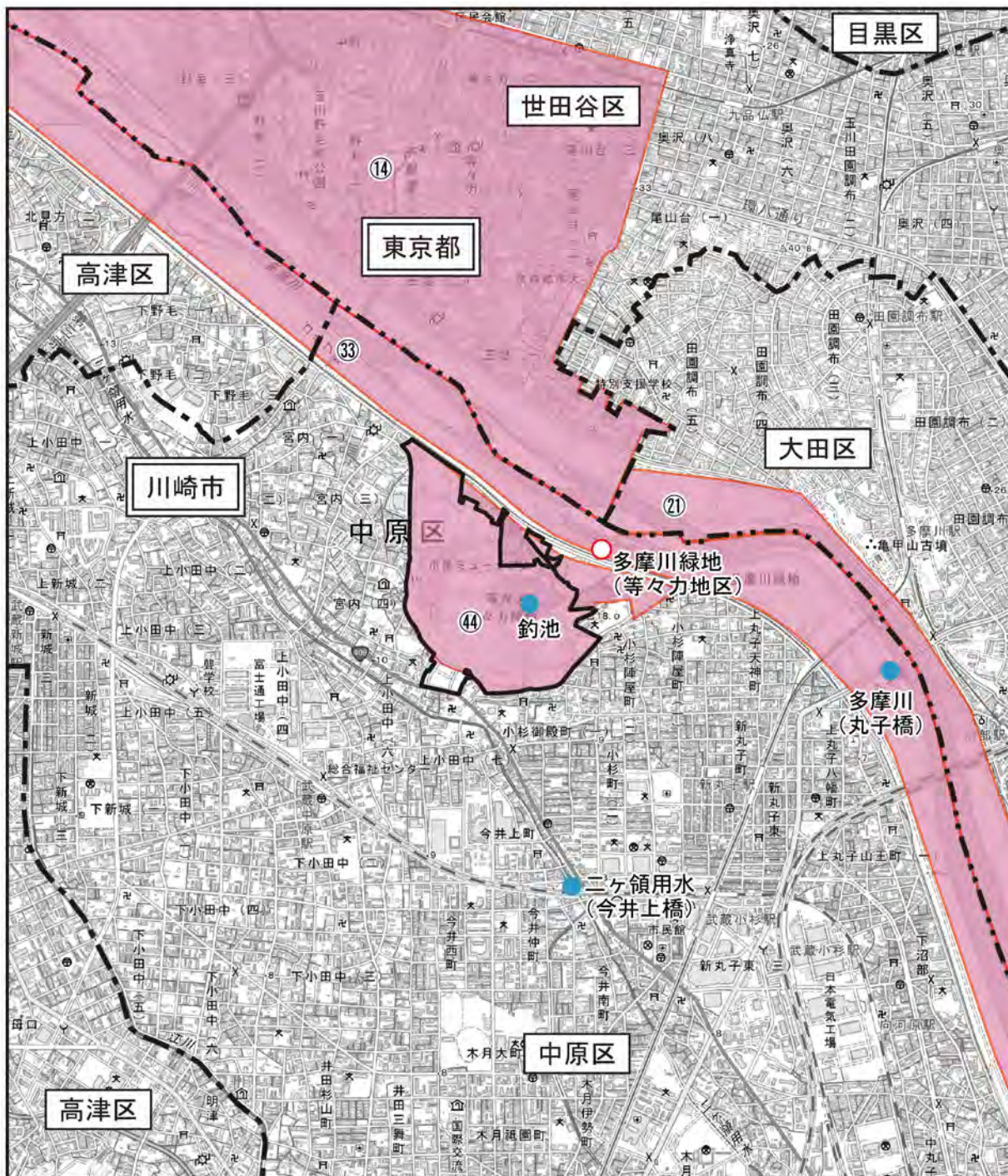
番号	名称	期間	場所	面積 (ha)	種類
㊸	多摩川	平成28年11月1日から 令和8年10月31日まで	川崎市多摩区、高津区、 中原区、幸区、川崎区内 の各一部	703.0	身近な 鳥獣生息地
㊹	等々力 緑地	令和元年11月1日から 令和11年10月31日まで	川崎市中原区の一部	56.0	
㊺	世田谷	平成21年7月1日から 令和11年6月30日まで	世田谷区西南部一円	1,920	
㊻	多摩川	平成18年11月1日から 令和8年10月31日まで	多摩川及びその周辺一円	4,607	

注) 表中番号は、図 5-6 に対応する。

資料：「鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区一覧(令和 4 年 11 月 1 日現在)」

(令和 5 年 6 月閲覧、神奈川県ホームページ)

「令和 4 年度 鳥獣保護区等位置図」(東京都環境局)



凡例

- 計画地
- 都県界
- 区界
- 動物調査地点
- 水辺の生き物調査地点
- 鳥獣保護区

注) 図中番号は、表 5-10 に対応する。

資料: 「生物多様性かわさき戦略~人と生き物 つながりプラン~令和2(2020)年度取組状況報告書」(令和4年3月、川崎市)
 「かわさき水辺の生きもの~一川と海に出かけてみよう~」(平成31年3月、川崎市)
 「神奈川県鳥獣保護区等位置図」(令和4年10月、神奈川県)
 「令和4年度 鳥獣保護区等位置図」(東京都環境局)

図 5-6 計画地及び周辺における動植物調査地点及び鳥獣保護区位置図

0 250 500 750 1000



③ 生態系

計画地及びその周辺で確認されている生物種をもとに作成した生態系模式図は、図 5-7 に示すとおりである。

中原区の市街地を中心とする地域は、平坦な地形に市街地が広範囲に分布し、その中に小規模な「クヌギ-コナラ群集」や「緑の多い住宅地」、「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」等が散在する環境となっている。この地域に生育する植物種は、人為的環境に適応した種、植栽種、外来種の占める割合が多くなっていると考えられる。計画地の北側にある多摩川とその河川敷には、「オギ群集」、「河辺一年生草本群落」、「自然裸地」、「開放水域」等が分布し、アズマモグラ等の小型哺乳類、カナヘビ等の爬虫類、ヒバリ、オオヨシキリ等の鳥類、エンマコオロギ、カンタン、サトキマダラヒカゲ等の昆虫類が生息し、さらに栄養段階が高次のシマヘビ等の爬虫類、タヌキ、イタチ等の哺乳類、オオタカ、ハイタカ等の猛禽類が確認されている。

計画地は多摩川の旧河道と氾濫平野を砂利採取後に埋め立てた土地であり、植栽木を含む「クヌギ-コナラ群集」や「残存・植栽樹群を持った公園、墓地等」等が分布する。動物については、多摩川から計画地へ一部が流入しているものと考えられるが、計画地内の「クヌギ-コナラ群集」や「残存・植栽樹群を持った公園、墓地等」等に生息する動物種としては、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、カワラヒワ等の鳥類が確認されている。また、計画地内に存在する釣池には魚類やユスリカ等の水生動物が生息し、これらを捕食するカメ類やカエル類、カワセミやコサギ等の鳥類が確認されている。

また、「生物多様性かわさき戦略～人と生き物 つながりプラン～」(令和4年3月改定、川崎市)では、等々力緑地を二ヶ領用水生態系エリアの多摩川に近接する「拠点(コア)」と位置付け、水と緑の連続性・回遊性の確保の推進に取り組むとしており、「等々力緑地再編整備実施計画」(令和4(2022)年2月改定)においても、市域のみどり拠点である等々力緑地やみどり軸である多摩川、地域のみどりの拠点である神社、仏閣等とみどりの連続性を確保することで、生物多様性の保全や自然環境の創出を目指している。

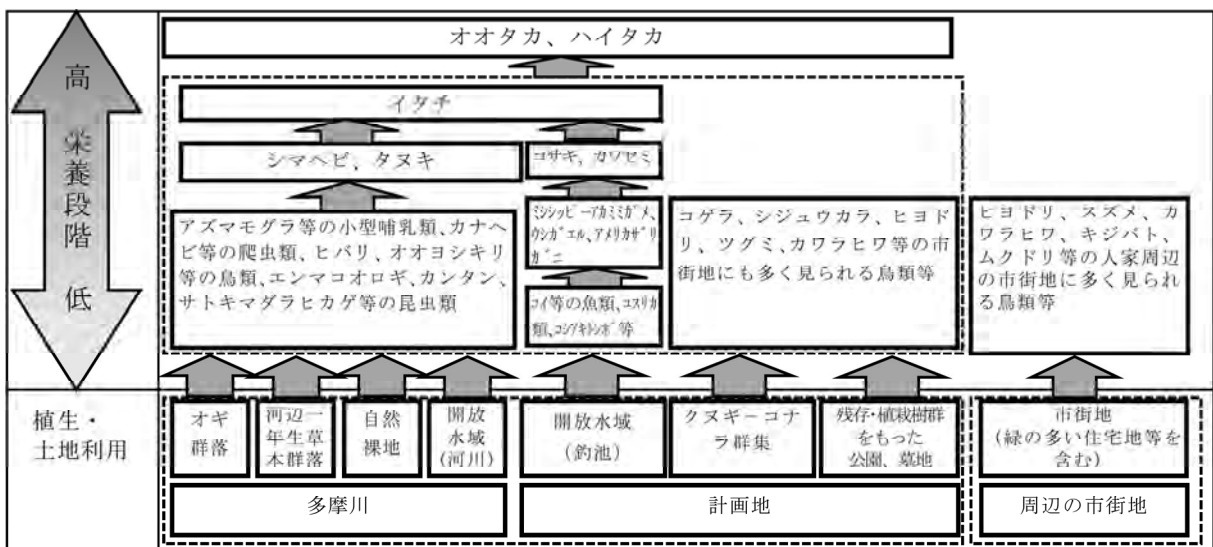


図 5-7 計画地及びその周辺の生態系模式図

ウ 緑（緑の質、緑の量）

① 緑の質

a 潜在自然植生

計画地及びその周辺の潜在自然植生は、図 5-8 に示すとおりである。

計画地及びその周辺の潜在自然植生はシラカシ群集 ケヤキ亜群集、ゴマギ-ハンノキ群集等である。

「神奈川県における潜在自然植生」（昭和 51 年 3 月、神奈川県教育委員会）によると、各群落域における適性植栽種は、表 5-11 に示すとおりであり、計画地の適性植栽種としては、クヌギ-ハンノキ群落（ゴマギ-ハンノキ群落）のハンノキ、エノキ、ムクノキ、クヌギ等がある。

表 5-11 潜在自然植生の各群落域における適性植栽種

潜在自然植生名	区分	潜在自然植生構成種	代償植生構成種
シラカシ群集 ケヤキ亜群集	高木層	シラカシ、タブノキ、ケヤキ	ケヤキ、エノキ、クヌギ、イヌシデ
	低木層	アオキ、ネズミモチ、イヌガヤ、イロハモミジ、チャノキ	サンショウ、ヤマコウバシ、クロモジ、マユミ、ゴンズイ
	草本層	ツルマサキ、マンリョウ、オオバジャノヒゲ、ジャノヒゲ	キンラン、ホウチャクソウ、ギンラン、イヌシヨウマ、エビネ
クヌギ-ハンノキ群落（ゴマギ-ハンノキ群集）	高木層	ハンノキ、エノキ、ムクノキ	クヌギ
	低木層	ゴマギ、イボタノキ	クコ、ノイバラ、エビヅル
	草本層	ヤガミスゲ、セリ、ミズタマソウ、エナシヒゴクサ	オギ、クサヨシ、キツネガヤ
ウキクサクラス、ヒルムシロクラス（開放水域植物群落）	—	ガガブタ、ヒシ、アサザ、ヒツジグサ、ジュンサイ、ヒルムシロ	—

注) 「ゴマギ-ハンノキ群集」は、「クヌギ-ハンノキ群落」のクヌギが植林されたものであるという考えから他の特徴的な植物であるゴマギの植物名を採用したものである。

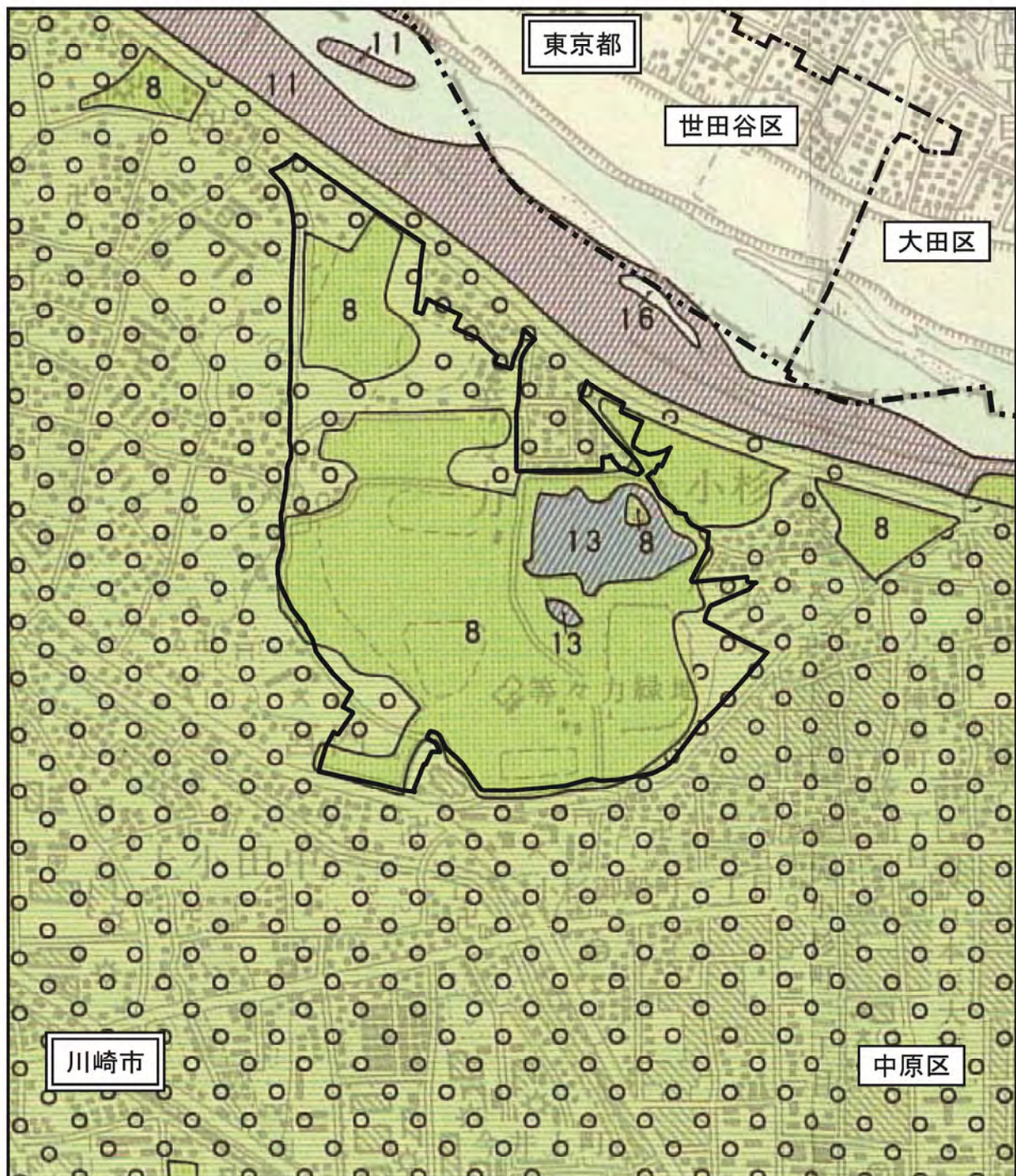
資料：「神奈川県における潜在自然植生」（昭和 51 年 3 月、神奈川県教育委員会）

「川崎市および周辺の植生 -環境保全と環境保全林創造に対する植生学的研究-」（昭和 56 年 3 月、横浜植生学会）









b 日照、潮風の状況

計画地は等々力緑地として、広場、樹林、釣池、スポーツ施設等が整備されている。緑地内にはオープンスペースが充実しており、大型施設の北側等一部の例外はあるものの、日当りは概ね良好である。

潮風の状況については、計画地は多摩川の河口から、約 14～15km の距離にあり潮風の影響は見られない。



凡例

- | | | | |
|---|-----|---|-------------------------------|
|  | 計画地 |  | シラカシ群集 ケヤキ亜群集 |
|  | 都県界 |  | 8 ゴマギーハンノキ群集 |
|  | 区界 |  | 11 オギーヨシ群団 他(河辺草原植生) |
| | |  | 13 ウキクサクラス、ヒルムシロクラス(開放水域植物群落) |
| | |  | 16 開放水域 |

資料：「川崎市および周辺の植生 - 環境保全と環境保全林創造に対する植生学的研究 -」（昭和56年3月、横浜植生学会）

図 5-8 潜在自然植生図

0 100 200 300 400 500m



② 緑の量

a 樹林地

「川崎市緑の基本計画」（平成 30 年 3 月、川崎市）によると、計画地のある中原区の土地利用は、住宅系の割合が最も高く、樹林地を保全していくことが求められている。

川崎市における緑地面積（平成 28 年度～令和 2 年度）は表 5-12 に示すとおり、増加傾向にあり、計画地内には、ふるさとの森、四季園、21 世紀の森、釣池の周辺等にまとまった緑地が存在する。

表 5-12 川崎市における緑地面積（平成 28 年度～令和 2 年度）

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
特別緑地保全地区	128.2	128.3	130.2	134.0	137.2
緑の保全地域	31.2	31.2	31.2	31.5	31.5
緑地保全協定	71.07	72.18	70.56	70.56	70.56
保存樹林	4.6	4.5	4.5	4.8	5.2
ふれあいの森	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1
保安林	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
合計	241	242	243	246	251

注) 「合計」以外の項目は各年度版の資料に記載の値、「合計」は 2021 年度版の資料に記載の値を示した。
資料：「2017 年度版～2021 年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

b 農地

「川崎市緑の基本計画」によると、計画地のある中原区の土地利用は、住宅系の割合が最も高く、良好な都市環境を形成している一団の良好な農地を生産緑地地区に指定し、保全に努めることが求められている。

川崎市における農地面積（平成 28 年度～令和 2 年度）は表 5-13 に示すとおり、横ばい傾向にある。

なお、計画地及びその周辺に農地は存在しない。

表 5-13 川崎市における農地面積（平成 28 年度～令和 2 年度）

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
農業振興地内農用地	86	81.5	82.9	82.9	82.9
生産緑地内農地	279	276	273	268	264.9
体験型農園・市民農園等	9	7.6	10.1	10.7	10.9
合計	368	365	364	361	357

注) 「合計」以外の項目は各年度版の資料に記載の値、「合計」は 2021 年度版の資料に記載の値を示した。
資料：「2017 年度版～2021 年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

c 緑化地

「川崎市緑の基本計画」によると、計画地のある中原区は等々力緑地等の大規模な公園や井田山周辺等のまとまった緑地を、社寺林の保全、河川に沿った地域緑化の促進等によって、ネットワーク化していくことが求められている。

川崎市における公共施設等の緑化地創出面積（平成28年度～令和2年度）は表5-14に示すとおり、横ばい傾向にある。

表 5-14 川崎市における公共施設等の緑化地創出面積（平成28年度～令和2年度）

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
公共施設等の緑化地創出面積	357	357	360	361	361

資料：「2017年度版～2021年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

d 公園緑地

「川崎市緑の基本計画」によると、計画地のある中原区は等々力緑地を含む都市公園等が多く存在している。計画地周辺の公園等の分布状況は、「(8) イ 公園等」の表5-25（p.117参照）、図5-18（p.120参照）に示すとおりである。

川崎市における公園緑地面積（平成28年度～令和2年度）は表5-15に示すとおり、増加傾向にある。

表 5-15 川崎市における公園緑地面積（平成28年度～令和2年度）

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
公園緑地	776	782	785	791	790

資料：「2017年度版～2021年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

e その他の緑地

川崎市における「その他の緑地※」の面積（平成28年度～令和2年度）は表5-16に示すとおり、横ばい傾向にある。

計画地周辺の「その他の緑地」としては、計画地の北側約10mの多摩川河川敷等があげられ、計画地内の水域としては、「釣池」が存在する。

表 5-16 川崎市における「その他の緑地※」の面積（平成28年度～令和2年度）

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
その他の緑地	約755	約755	約755	約755	約755

※：その他の緑地とは、河川の水面、河川敷等である。

資料：「2017年度版～2021年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

エ 人と自然とのふれあい活動の場

計画地及びその周辺の人と自然とのふれあい活動の場として、「(8) イ 公園等」の表 5-25 (p.117 参照)、図 5-18 (p.120 参照) に示した総合公園、運動公園及び緑道等や、表 5-17 及び図 5-18 (p.120 参照) に示す散策路等が存在する。

計画地最寄りの人と自然とのふれあい活動の場として、市道主要地方道幸多摩線(多摩沿線道路)をはさんで、計画地の北側の多摩川河川敷に、運動公園「多摩川緑地等々力地区」、「多摩川緑地宮内地区」の広場、多摩川堤防上に「かわさき多摩川ふれあいロード(サイクリングコース)」、河川敷に「岸辺の散策路(多摩川散歩道)」がある。また、多摩川河川敷は、体験型環境学習の場(とどろき水辺の楽校)としても利用されている。

計画地は、総合公園「等々力緑地」であり、等々力緑地内にはスポーツ施設や広場、子供の遊び場等、様々な施設が充実しているが、「ふるさとの森」、「四季園」、「21世紀の森」、「釣池」の周辺等は、遊歩道が整備された自然とふれあえる樹林地となっている。水辺である「釣池」にはフィッシングコーナーがあり、釣りが楽しめる。また、花壇ボランティアの活動の場や、自然体験教室等の活動の場としても利用されており、等々力緑地全体が、人と自然とのふれあい活動の場となっている。

表 5-17 計画地周辺における人と自然とのふれあい活動の場

番号	人と自然とのふれあい活動の場
①	等々力岸辺の散策路(多摩川散歩道)
②	かわさき多摩川ふれあいロード(サイクリングコース)
③	二ヶ領用水散策こみち

注) 表中番号は、図 5-18 (p.120 参照) に対応する。

資料: 「かわさき多摩川ふれあいロード全体図」(令和 5 年 6 月閲覧、川崎市ホームページ)

「多摩川散策マップ」(令和 5 年 6 月閲覧、京浜河川事務所ホームページ)

「二ヶ領用水散策マップ」(平成 30 年 3 月、川崎市)

(5) 人口、産業の状況

ア 人口及び世帯数の状況

計画地周辺の町丁の人口及び世帯数は表 5-18 に、過去 5 年間の人口の変化は図 5-9 に、計画地及びその周辺の町丁の状況は図 5-10 に示すとおりである。

計画地は等々力及び宮内 4 丁目に位置する。等々力の人口は横ばい傾向、宮内 4 丁目は増加傾向にあり、令和 4 年 12 月末日現在で等々力は 399 人、世帯数は 204 世帯、宮内 4 丁目は 3,801 人、世帯数は 1,959 世帯である。

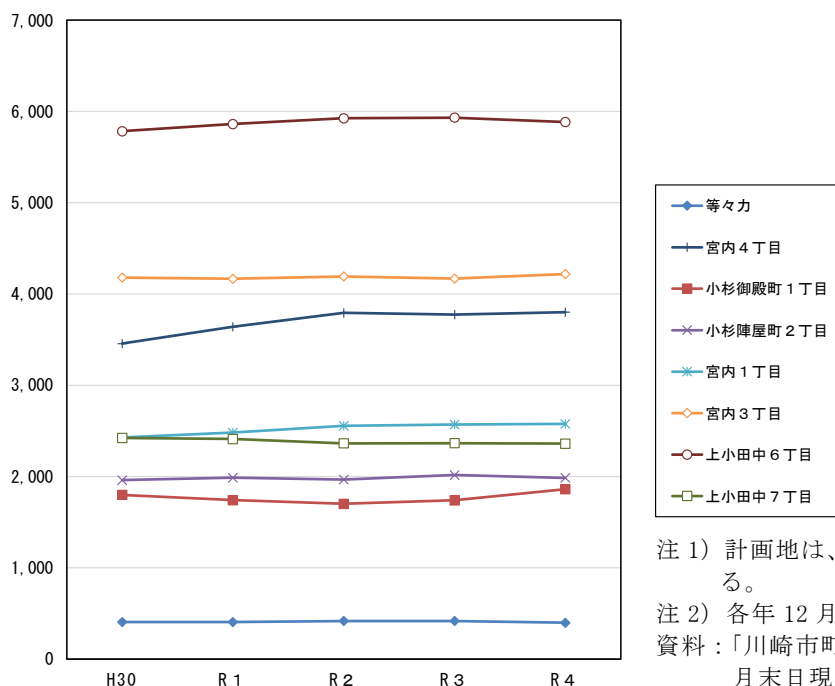
表 5-18 人口及び世帯数（令和 4 年 12 月末日現在）

町 丁		人 口 (人)	世帯数 (世帯)	
川崎市	中原区	等々力	399	204
		宮内 4 丁目	3,801	1,959
		小杉御殿町 1 丁目	1,862	931
		小杉陣屋町 2 丁目	1,986	1,083
		宮内 1 丁目	2,577	1,160
		宮内 3 丁目	4,219	1,879
		上小田中 6 丁目	5,884	3,098
		上小田中 7 丁目	2,361	1,123
		1,522,098	768,315	

注) 計画地は、等々力及び宮内 4 丁目に位置する。

資料：「川崎市町丁別世帯数・人口（令和 4 年 12 月末日現在）」

（令和 5 年 6 月閲覧、川崎市ホームページ）



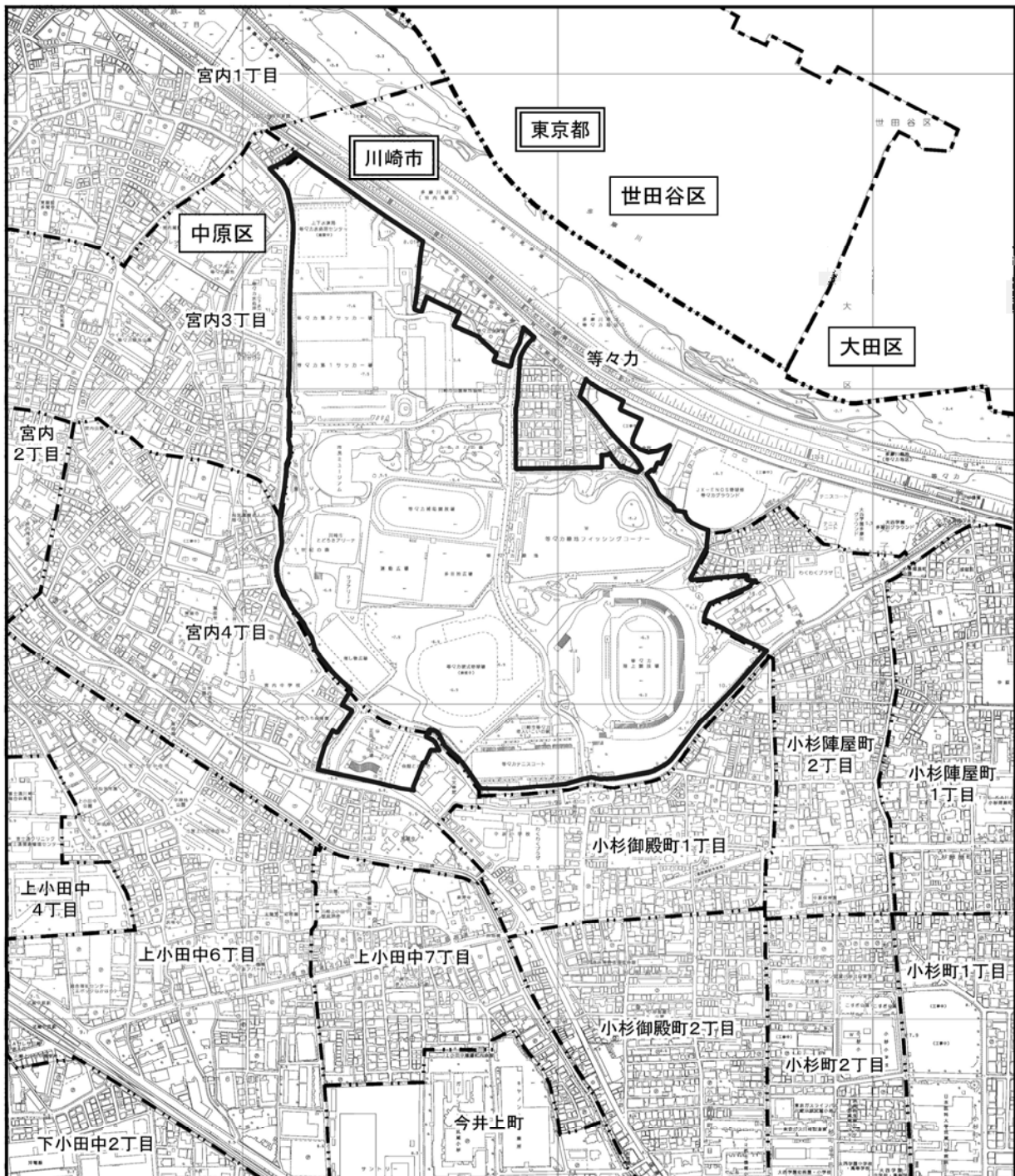
注 1) 計画地は、等々力及び宮内 4 丁目に位置する。

注 2) 各年 12 月末日現在の値を示す。

資料：「川崎市町丁別世帯数・人口（令和 4 年 12 月末日現在）」

（令和 5 年 6 月閲覧、川崎市ホームページ）

図 5-9 人口の推移



凡例

- 計画地
- 都県界
- 区界
- 町丁界

図 5-10 計画地周辺町丁図



イ 産業の状況

中原区及び川崎市全体の事業所数及び従業者数は、表 5-19 に示すとおりである。

産業分類別の事業所数は中原区及び川崎市ともに「卸売業、小売業」が最も多く、次いで中原区では「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」、川崎市では「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっている。

産業分類別の従業者数は中原区では「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「情報通信業」、「製造業」の順となっている。川崎市では「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「医療、福祉」、「製造業」の順となっている。

表 5-19 中原区及び川崎市全体の事業所数及び従業者数
(令和 3 (2021) 年 6 月 1 日現在)

産業 (大分類)		中原区		川崎市	
		事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)
第一産業	農業、林業、漁業	6	20	72	633
	計	6	20	72	633
第二産業	鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-
	建設業	448	3,085	4,101	31,130
	製造業	454	16,599	2,806	70,892
	計	902	19,684	6,907	102,022
第三産業	電気・ガス・熱供給・水道業	5	24	41	716
	情報通信業	193	17,283	926	34,418
	運輸業、郵便業	67	2,807	1,256	35,224
	卸売業、小売業	1,347	18,793	7,971	102,975
	金融業、保険業	89	1,600	462	8,034
	不動産業、物品賃貸業	833	3,459	4,358	16,887
	学術研究、専門・技術サービス業	324	4,338	2,153	25,079
	宿泊業、飲食サービス業	1,022	13,495	4,604	47,580
	生活関連サービス業、娯楽業	586	2,994	3,141	17,984
	教育、学習支援業	315	2,908	1,485	21,151
	医療、福祉	956	14,175	4,774	84,798
	複合サービス事業	22	227	144	3,435
	サービス業 (他に分類されないもの)	300	5,299	2,230	40,414
	計	6,059	87,402	33,545	438,695
合計		6,967	107,106	40,524	541,350

注) 「-」は皆無または定義上該当数値がないことを示す。

資料: 「川崎市の経済(速報)―令和 3 年経済センサス-活動調査結果速報―」 (令和 4 年 8 月、川崎市)

(6) 土地利用状況

ア 土地利用規制状況

計画地及びその周辺における土地利用規制状況は、表 5-20 及び図 5-11 に示すとおりである。

計画地は第一種中高層住居専用地域に指定されている。また、計画地周辺は第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、準住居地域等に指定されている。

なお、計画地は「第 1 章 指定開発行為の概要」(p.19 参照)に示すとおり、都市計画法に基づく都市計画施設及び用途地域の見直しを予定しており、都市計画施設については「緑地」から「公園」に、用途地域については「第一種中高層住居専用地域」から「第二種住居地域」に見直しする予定である。また、川崎都市計画で定めた建ぺい率は 60%、「川崎市都市公園条例」(昭和 32 年 3 月、条例第 6 号)に基づく建ぺい率の上限は 20%となっている。

表 5-20 土地利用規制状況

項目	内容
都市計画区域	市街化区域
用途地域	第一種中高層住居専用地域
建ぺい率	川崎都市計画で定めた建ぺい率：60% 川崎市都市公園条例に基づく建ぺい率の上限：20%
指定容積率	200%
その他	多摩川風致地区

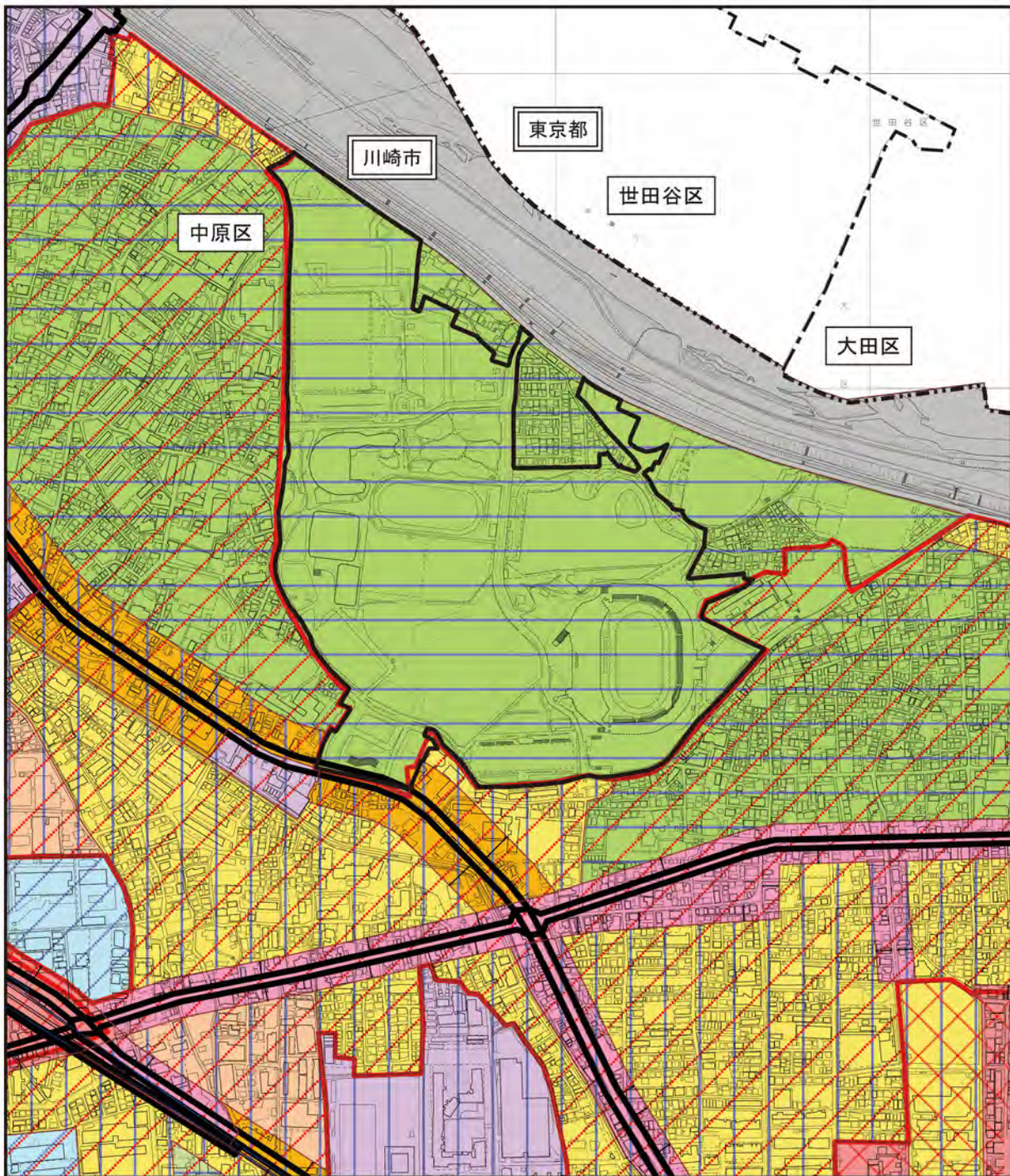
資料：「ガイドマップかわさき 都市計画情報 用途地域等」(令和 5 年 6 月閲覧、川崎市ホームページ)

イ 土地利用の状況

計画地及びその周辺の土地利用は図 5-12 に、計画地及びその周辺の現況は写真 5-1(1)~(2)に、それらの撮影地点は図 5-13 に示すとおりである。

計画地は現在、大部分が、公共空地及び文教・厚生用地として利用されている。

計画地の東側、南側、西側は住宅用地、集合住宅用地が広域にわたって分布し、その他、「文教・厚生用地」、「業務施設用地」、「軽工業用地」、「供給処理施設用地」等も分布している。



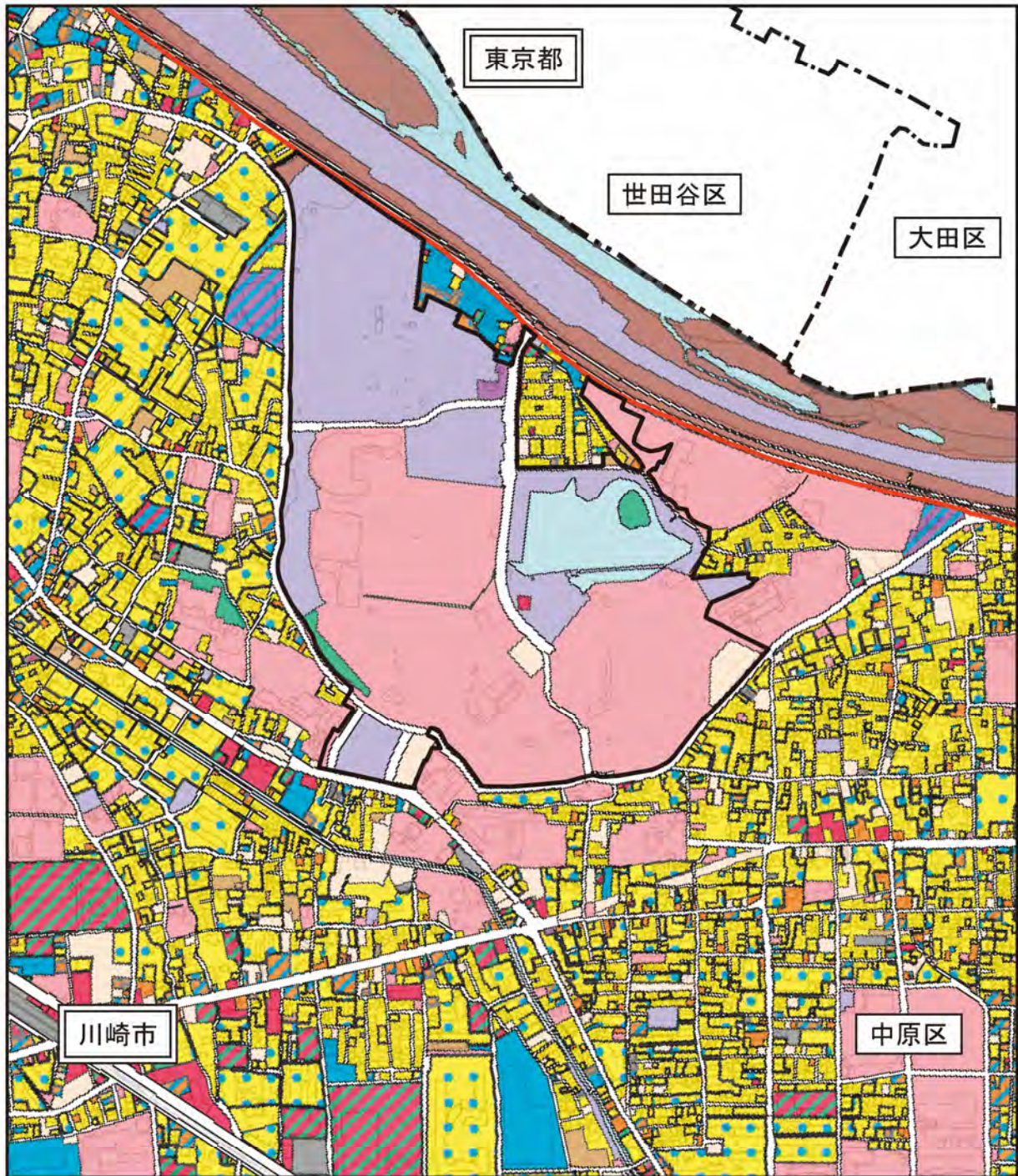
凡例

- | | | | | | |
|--|-----|--|--------------|--|---------|
| | 計画地 | | 第一種中高層住居専用地域 | | 防火地域 |
| | 都県界 | | 第一種住居地域 | | 準防火地域 |
| | 区界 | | 第二種住居地域 | | 第2種高度地区 |
| | | | 準住居地域 | | 第3種高度地区 |
| | | | 近隣商業地域 | | 市街化調整区域 |
| | | | 商業地域 | | |
| | | | 準工業地域 | | |
| | | | 工業地域 | | |

資料：「ガイドマップかわさき 都市計画情報 用途地域等」（令和5年6月閲覧、川崎市ホームページ）

図 5-11 都市計画図





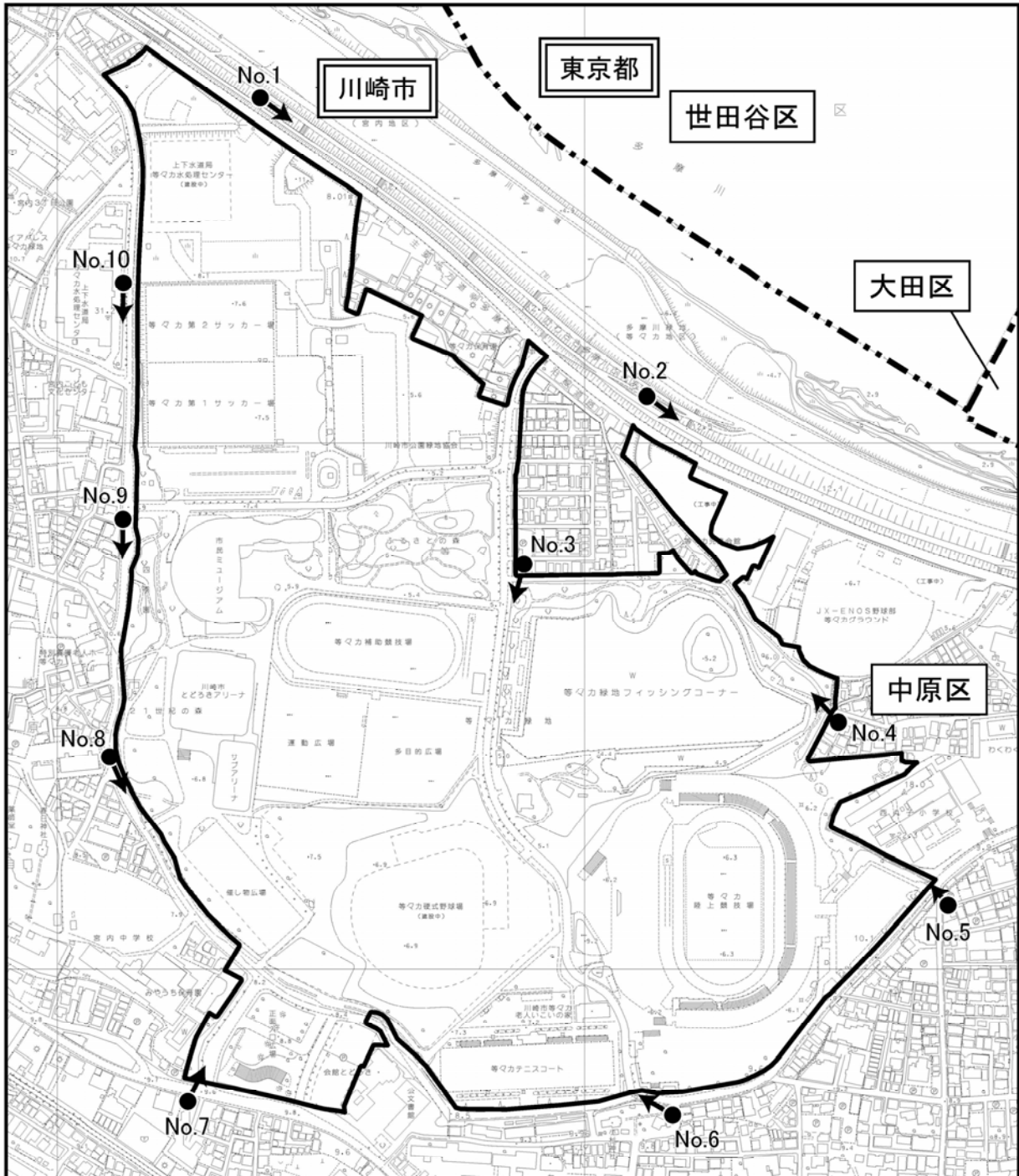
凡例			
	田(水田)		作業所併用住宅用地
	畑		供給処理施設用地
	計画地		併用集合住宅用地
	都県界		業務施設用地
	区界		商業用地
	耕作放棄地		宿泊娯楽施設用地
	平坦地山林		重化学工業用地
	傾斜地山林		軽工業用地
	河川、水面、水路		運輸施設用地
	荒地、海浜、河川敷		公共用地
	住宅用地		文教・厚生用地
	集合住宅用地		公共空地
	店舗併用住宅用地		民間空地
			その他の空地
			防衛施設
			道路用地、鉄道用地
			農振農用地
			市街化区域と市街化調整区域の境界

資料：「神奈川県土地利用現況図 [川崎東]」(神奈川県土整備局都市部都市計画課)

図 5-12 土地利用現況図

0 100 200 300 400 500m





凡例





-  計画地
-  都県界
-  区界
-  撮影地点及び撮影方向

図 5-13 現況写真撮影地点位置図

0 100 200 300m





No.1 計画地北西側多摩川沿いより



No.2 計画地北側多摩川沿いより



No.3 計画地北側歩道より



No.4 計画地東側住宅地より



No.5 計画地東側歩道より



No.6 計画地南側歩道より

写真 5-1(1) 計画地周辺現況写真 (撮影日: 令和 5 年 4 月 13 日)



No.7 計画地南西側歩道より



No.8 計画地西側歩道より



No.9 計画地西側歩道より



No.10 計画地北西側歩道より

写真 5-1(2) 計画地周辺現況写真（撮影日：令和 5 年 4 月 13 日）

ウ 周辺地域の開発動向

計画地及びその周辺の道路等に係る計画等は、表 5-21(1)～(5)及び図 5-14 に示すとおりである。

国道 409 号（府中街道）、県道主要地方道丸子中山茅ヶ崎（中原街道）は、「第 2 次川崎市道路整備プログラム」の対象路線であり、道路拡幅や新設が計画されている。このうち、都市計画道路丸子中山茅ヶ崎線の「②小杉御殿工区」はプログラム後期①期間中（令和 7 年度末まで）に完成予定、計画地に接する国道 409 号（府中街道）の「6 小杉御殿町 I 期工区」はプログラムの後期②期間中（令和 11 年度末まで）に完成予定であるが、その他は事業継続中もしくは未着手の工区が多くなっている。

また、計画地西側約 500m で、国道 409 号（府中街道）と市道主要地方道幸多摩線（多摩沿線道路）を結ぶことになる主要地方道宮内新横浜線の「10 宮内工区」は、道路整備プログラムの対象路線となっており、事業継続中であるが、多摩川に架かる「11 等々力大橋工区」はプログラム後期①（令和 7 年度末まで）に完成予定となっている。

表 5-21(1) 「第2次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
(土地収用制度活用路線(令和7年度末までに完成予定))

地点	区別	路線名	工区名	当初計画	前期進捗 (H28~R3)	後期①取組 (R4~R7)	後期②取組 (R8~R11)
①	中原	(国)国道409号	市ノ坪	計画期間内の 完成に向けて 最優先で取組 を進める。	→	完成	—
②		(都)丸子中山茅ヶ崎線	小杉御殿		→	完成	—
③		(都)荏宿小田中線	Ⅲ期		→	完成	—
④		(都)宮内新横浜線	子母口		→	完成	—

注) (都)は都市計画道路の街路事業、(国)は国道の道路事業に該当する。

→: 事業継続、—: 未着手または完成済

資料: 「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第2次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4~R11】～ 計画期間 平成28年度~令和11年度 (令和4年2月、川崎市)

表 5-21(2) 「第2次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
(整備推進路線(令和11年度末までに完成予定))

地点	区別	路線名	工区名	前期 (H28~R3)		後期① (R4~R7)		後期② (R8~R11)
				当初 目標	進捗	当初 目標	進捗	取組
3	中原	(都)東京丸子横浜線	市ノ坪	完成	→	—	完成	—
4		(都)荏宿小田中線	I期	完成	H28完成	—	—	—
5		(国)国道409号	小杉	→	→	完成	→	完成
6		(国)国道409号	小杉御殿町I期	→	→	完成	→	完成
11		(市)宮内新横浜線	等々力大橋	→	→	完成	完成	—

注) (都)は都市計画道路の街路事業、(国)は国道の道路事業、(市)は市道の道路事業に該当する。

→: 事業継続、—: 未着手または完成済

資料: 「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第2次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4~R11】～ 計画期間 平成28年度~令和11年度 (令和4年2月、川崎市)

表 5-21(3) 「第2次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
(整備推進路線(事業継続中もしくは令和11年度末までに着手予定))

地点	区別	路線名	工区名	前期 (H28~R3)		後期① (R4~R7)		後期② (R8~R11)
				当初 目標	進捗	当初 目標	進捗	取組
7	中原	(国)国道409号	小杉御殿町Ⅱ期	→	→	→	→	→
8		(国)国道409号	宮内	—	—	着手	先送り	着手
9		(国)国道409号	下野毛	—	—	着手	先送り	着手
10		(都)宮内新横浜線	宮内	→	→	→	→	→
16	高津	(国)国道409号	北見方	→	→	→	→	→

注) (都)は都市計画道路の街路事業、(国)は国道の道路事業に該当する。

→: 事業継続、—: 未着手または完成済

資料: 「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第2次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4~R11】～ 計画期間 平成28年度~令和11年度 (令和4年2月、川崎市)

表 5-21(4) 「第 2 次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
(調整路線※)

地点	区別	路線名	工区名
ア	中原	荻宿小田中線	Ⅱ期

※：隣接区間の整備状況等を踏まえ、着手時期について検討する路線。

資料：「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第 2 次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4～R11】～ 計画期間 平成 28 年度～令和 11 年度」（令和 4 年 2 月、川崎市）

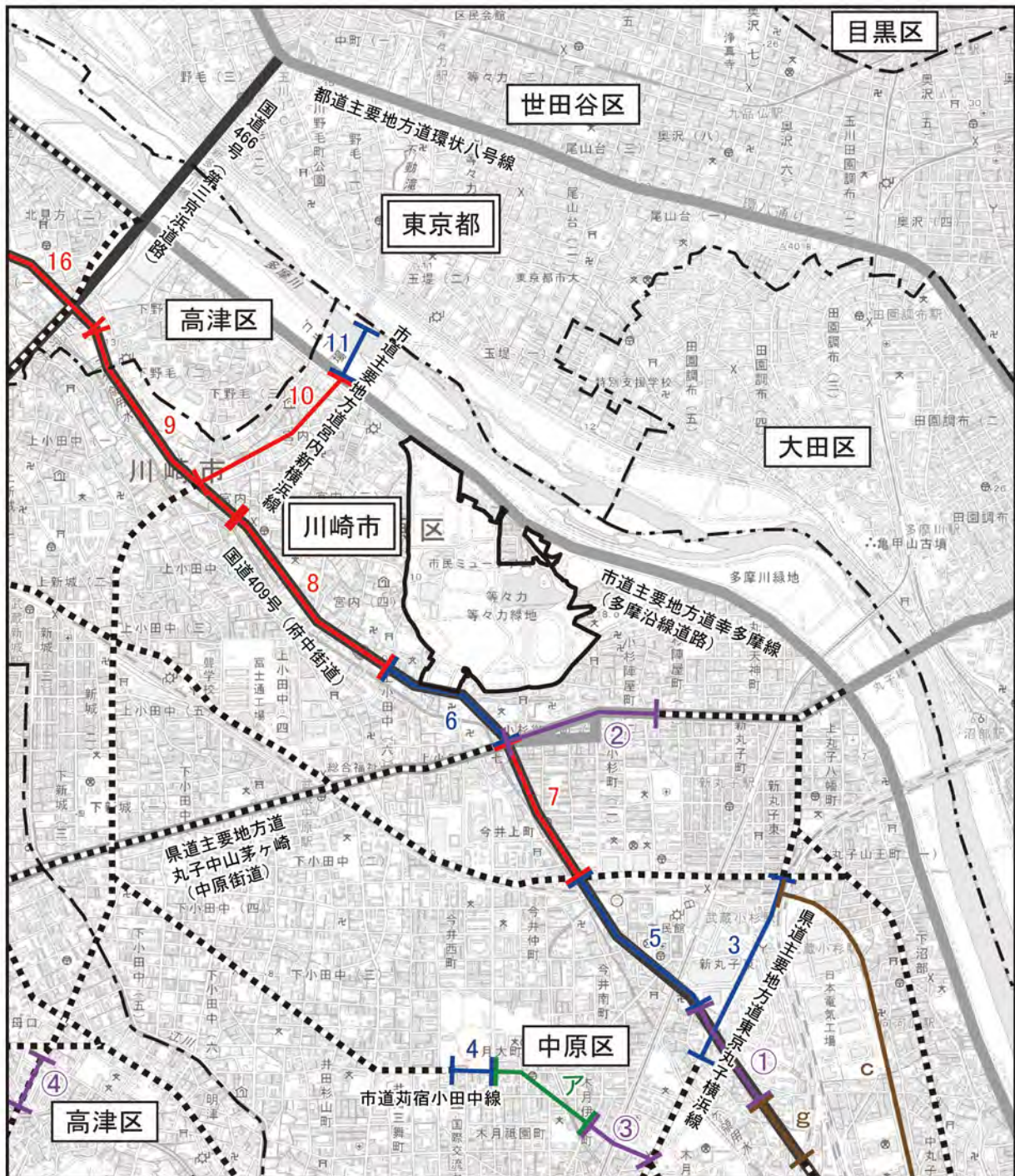
表 5-21(5) 「第 2 次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
(関連事業等（令和 7 年度までに着手予定）

地点	区別	路線名	備考	計画 (R4～R7)
c	幸・中原	JR南武線連続立体交差事業	尻手（矢向）駅～武蔵小杉駅	着手
g	中原	(都)鹿島田菅線	JR南武線連続立体交差事業関係	

注) (都)は都市計画道路の街路事業に該当する。

資料：「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第 2 次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4～R11】～ 計画期間 平成 28 年度～令和 11 年度」（令和 4 年 2 月、川崎市）



凡例

- 計画地
- 都県界
- 区界
- 国道
- 主要地方道

【道路整備事業】

- 土地収用制度等活用路線（令和7年度末までに完成予定）〈①～④〉
- 整備推進道路（令和11年度末までに完成予定）〈3～6、11〉
- 整備推進道路（事業継続中もしくは令和11年度末までに着工予定）〈7～10、16〉
- 調整路線（着手時期を調整する路線）〈ア〉

【関連事業】

- 連続立体交差事業〈c、g〉

【整備済路線】

- 整備済路線

資料：「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第2次川崎市道路整備プログラム
 ～後期の取組【R4～R11】～計画期間 平成28年度～令和11年度」（令和4年2月、川崎市）
 「ガイドマップかわさき 都市計画情報 都市計画道路事業進捗図」（令和5年6月閲覧、川崎市ホームページ）

図 5-14 道路等に係る計画等の状況

0 250 500 750 1000m

